

平成 28 年度第 3 回（第 2 期第 3 回）仙台市協働まちづくり推進委員会 議事録

○日 時：平成 28 年 8 月 31 日（水）19:00～21:15

○場 所：仙台市役所本庁舎 2 階 第 1 委員会室

○出席委員：風見正三委員長、大橋雄介副委員長、伊勢みゆき委員、小野みゆき委員、佐々木秀之委員、島田福男委員、庄司真希委員、其田雅美委員、浜知美委員、
○欠席委員：高橋早苗委員、本郷一司委員

○事務局：市民局長、市民局次長兼協働まちづくり推進部長、市民協働推進課長、
広聴統計課長、市民活動サポートセンターセンター長、
協働推進係長、NPO 認証係長、他担当職員

○次第

1 開会

2 報告

(1) 「仙台市協働まちづくり推進プラン 2016」の策定について

3 議事

(1) 平成 27 年度の協働によるまちづくりの推進に関する取り組み実績について
(2) アクションチームの検討状況について

4 その他

5 閉会

○会議内容

1 開 会

[事務局（協働推進係長）]

ただいまから平成28年度第3回仙台市協働まちづくり推進委員会を開催いたします。

議事に入ります前に当委員会の定足数の確認をさせていただきます。本日は高橋委員、本郷委員から欠席のご連絡をいたしており、伊勢委員は遅れていらっしゃる予定です。11名中9名のご出席ということで、過半数の方のご出席により、仙台市協働によるまちづくりの推進に関する条例施行規則第4条第2項の規定に基づき、会議は成立しておりますことをご報告申し上げます。

続きまして本日の資料の確認をさせていただきます。

お手元に資料1から3までご用意させていただいております。資料が足りない方はいらっしゃいますでしょうか。それではここからの進行は風見委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

[風見委員長]

皆さん、こんばんは。大学は8月末はいろんなところに行くのですが、私も関西、岡山方面でいろいろないいものを見てきました。特にアートの活動とまちづくりが本流なのではないかなと、感じています。例えば北川フラムさんがやっている大地の芸術祭越後妻有のアートトリエンナーレがあります。

芸術が市民の心をつなぐ何かとても大きなものになっていて、その市民の方々がその地域を愛する力が芸術的なものに結晶していき、それをしっかりとプロモーションしています。例えば有名なベネッセの直島のプロジェクトは、あのような大きな取り組みになるとは誰も思っていなかつたわけです。

サポセンもこんなになるんだといわれるよう、ソーシャルイノベーションとアートと、そういう市民活動みたいなものが何かつながらないかなというような思いで、いろんなまちを見てきました。

今日は次第にあるように、基本方針をベースに、「協働まちづくり推進プラン2016」をまとめていただいているようですので、その報告と、協働まちづくり推進の今までの実績についてです。

また、アクションチームにも集まっていますので、我々のひとつのフラッグシップとして形に見える、いろんな意味でのサポセンのリノベーションはとても大きな目標になろうかと思いますので、そのあたりも、じっくり集中議論できればと思っております。

この委員会もそうですが、情報はどんどん市民に開かれていくべきで、サポセンの話も市民の方に見えるように、例えば11月に経過を報告するイベントを行うということもある

うかと思いますので、来年度の完結に向けていろいろな仕掛けをつくっていきたいと思っていますので、今日はアクションチームには現状を報告していただいて、戦略をしっかりと練れればと思います。

来年度の予算は大体 10 月ぐらいが山場で、今日の会議はすごく重要になると思いますので、今後のスケジュールをしっかりと詰めて、成果を出す委員会になっていかなければと思います。それでは議事録署名人は、今回は小野委員にお願いしたいと思います。

2 報告

(1) 「仙台市協働まちづくり推進プラン 2016」の策定について

[風見委員長]

○ それでは、今日は報告から先に入ります。「仙台市協働まちづくり推進プラン 2016」の報告を、事務局よりお願いします。

[事務局（市民協働推進課長）]

「仙台市協働まちづくり推進プラン 2016」の策定について、ご報告いたします。昨年の 7 月の協働条例施行を受けまして、今年の 1 月には、当委員会からいただいた答申を基に基本方針が策定された中で、今般その基本方針で掲げている基本的な施策を推進するための推進プランを策定したものでございます。

資料 1-1 の概要版をご覧いただければと思います。資料 1-2 が本編ですが、概要版でご説明をしたいと思います。まず I の「計画策定の背景・目的」でございます。本市におきましては市民の自発的で公益的な活動が個性と魅力ある都市創造の活力源であり、また新たなまちづくりの原動力にもなっているというところです。

○ そして人口減少社会の到来等によって、地域課題がますます複雑さを増す中にあって、持続的な発展を支えるためには、協働によるまちづくりを一層推進させる必要がございまして、基本方針に掲げております基本的な施策を推進するための主な事業を体系化し、進行管理をするために計画を策定したものです。

II の「計画期間」につきましては、平成 28 年度から 32 年度の 5 年間としておりますが、進行管理は、2 期に分けて行います。本市の実施計画の計画期間も考慮しまして、まず 1 期目として 28 年度から 30 年度、そして 2 期目として 31 年度から 32 年度というふうに分けて、進行管理を行ってまいります。

次に III の「まちづくりの各主体の現状と課題」についてでございます。1 から 5 までそれぞれ主なまちづくりの主体ごとに、現状と課題を記載しております。当委員会でもだいぶご議論いただき、答申等もいただいている内容を盛り込んでございます。(1) の地域団体、これは町内会や自治会などでございますが、地域づくりのまさに中核として、大きな力を発揮されております。一方で、役員の高齢化や成り手不足などの課題があることから、地

域活動への支援の継続や多様な主体が連携して、地域課題の発掘・解決に取り組める環境の整備が必要であると考えております。

(2) の市民活動団体は、NPO やボランティアなどですが、多岐にわたる分野で、市民生活に深く関わった活動が行われています。人材不足や資金不足等の課題があるものの、協働に関心のある団体が多く、さまざまな課題の解決とともに、協働が円滑に進むための環境づくりを、多面的に行っていく必要があると考えております。

(3) の教育機関には、小中学校、大学、市民センターという社会教育施設なども含まれますが、まさに地域との連携が再認識されています。地域ぐるみで子どもを育成することによる地域の活性化や学都仙台が有している知的資源の地域への還元や市民センターをはじめとする社会教育施設の特性を生かした地域づくりを担う人材の育成を推進していく必要があると捉えています。

(4) の企業についてですが、本市の経済・雇用を支えている中小企業は、いろいろな社会貢献の形あるかと思いますが、地域の行事への参加や、寄附といったものを通じて、地域と連携した取り組みに対する認識が高まっている中で、さらなる企業の地域貢献を促進する環境づくりを進めていく必要があると考えております。

(5) の仙台市、行政につきましては、協働を基調としたまちづくりを進めておりますが、さまざまな取り組みの積極的な情報発信や市民とともにまちづくりを行える職員の育成、さらには地域の実情に応じた、きめ細かな取り組みを進めるためのより一層の体制の充実が必要あると考えております。

続きましてIVの「協働の基本理念のキーワード」です。条例上目指す協働の姿を基本理念として定めておりますが、自立・連携・創発という 3 つのキーワードを図式化したものです。

次にVの「協働によるまちづくりの推進に向けて」をご覧ください。これは協働のまちづくりの流れを表したものです。今回のプランでは、基本方針に掲げております 3 分野 13 項目の基本施策ごとに施策を推進するための事業を体系化しております。この基本施策に関する事業を進行管理することによって、協働による多様な取り組みの展開を促進してまいりたいと考えております。

2 ページ目の左側の部分が 3 分野 13 項目の基本施策で、これは条例でも規定されている項目でございます。右側が基本施策を推進していくための主な事業となっております。

事業の主なもののみご説明しますと、はじめに 1 の「市民活動の促進及び市民協働の推進に関する事項」ですが、(1) の「市民活動の自立が促され、継続的な活動が行われるための環境整備」につきましては、さまざまな市民活動の拠点施設での支援のほか、複数団体が連携して、まちづくりに取り組む事業に対する新たな助成制度の構築、これは前回の審議会でもご意見をいただきしておりますが、そういういたものも予定しております。

(2) の「持続可能な事業的手法等による地域課題の解決の促進」でございますが、まちづくりの人材の育成と情報発信を行う「WE SCHOOL」や、コミュニティビジネス・ソーシャル

ビジネスの促進として、企業支援センター“アシ☆スタ”を中心に、セミナー等の開催を行ってまいりたいと考えております。

(3)の「市民からの提案に基づく協働事業の拡充」ですが、市民から提案をいただきて、行政とともに課題解決や魅力の向上に取り組む制度の充実を図っていくほか、これも今後、本委員会でご議論いただくことになりますが、協働の手引きや事例集といったものを作成してまいりたいと考えています。

(4)の「協働の理解を広げ、多様な主体間の協働を推進するための人材の育成」につきましては、ともにまちづくりを行える職員の育成ということで、市民協働に関する職員研修や市民活動団体への派遣体験事業を実施するほか、各拠点施設における人材育成としては、市民センターで実施しております地域づくりに関する事業等を通じて、人材の発掘、育成などを進めてまいります。

○ 次に2分野目の、「政策形成過程への市民の参画の推進に関する事項」でございます。(1)の「市政に関する情報の公開の推進」につきましては、仙台市ホームページの充実として、ホームページのリニューアルを行ってまいりますほか、オープンデータの活用推進として、データのさらなる充実を図るとともに、その利活用の推進を図る取り組みも進めてまいりたいと思っております。

(2)の「政策の企画、立案等における市民の意見の提出の機会の確保」については、パブリックコメントや市政モニターによる意見募集などを引き続き実施してまいりますほか、障害者への適切な情報提供や意見聴取の推進としまして、手話通訳の提供など、適切に対応するための事項を定めた職員の対応要領をつくっておりますので、そういうものの庁内へのさらなる周知、浸透を図ってまいりたいと考えております。

○ (3)の「政策または事業の方針、内容、評価等についての市民の意見の集約の機会の確保」につきましては、施策目標に関する市民意識調査や市民まちづくりフォーラムといった取り組みを引き続き行ってまいりますほか、附属機関の委員の選任における人材の多様化と公募の推進につきましては、委嘱状況を一元管理しまして、選任における人材の多様化や公募の推進、女性委員の登用率の向上を引き続き進めてまいります。

次に3分野目の「多様な主体による活動の促進に関する事項」ですが、(1)の「次の世代のまちづくりの担い手となる若者の育成」につきましては、平成25年度から若者や市職員が地域課題の解決策を企画立案する仙台ミラソンという事業を引き続き行っていくほか、大学の知的資源や学生のパワーを生かしたまちづくりを進める大学連携地域づくり事業等を実施してまいりたいと考えております。

(2)の「町内会等の地縁団体その他地域で活動する団体による地域を活性化する活動等の促進につきましては、区役所の地域での協働の機能の強化を図るという取り組み、そのほか昨年度より実施しているコミュニティ形成等をテーマとした地域課題の発掘、解決を図る地域力創造支援事業を推進してまいります。

そして(3)の「事業者による社会貢献活動の促進」につきましては、拠点施設における社

会貢献活動の促進支援ということで、市民活動サポートセンターにおきまして、さまざまな事例の収集や発信などの支援等を行ってまいりますほか、新たに地域社会の発展等に取り組む中小企業の皆様の表彰制度を設けまして、環境づくりを行ってまいります。

(4) の「多様な主体の交流の促進」につきましては、区民まつりや、仙台防災未来フォーラムといったさまざまなイベント等で発揮される多様な主体のネットワークを十分生かしながら、交流促進を図ってまいります。

(5) の「多様な主体の活動等に関する情報の収集および発信の促進」につきましては、各拠点施設における情報収集や、発信の支援等としまして、サポセンにおいてさまざまな活動に関する情報の収集や提供、さらには相談対応等の支援を行っていくほか、市民活動団体の情報を一元的に検索できるポータルサイト、「みやぎNPOナビ」の活用促進等も図ってまいります。

最後にVIIの「計画の進行管理」についてでございます。協働のまちづくりを着実に推進していくため、この本プランに掲載した事業につきましては、毎年度担当部局自らがその進捗状況の点検を行っていきたいと思っております。本編では、それぞれ数値目標等を掲げておりますので、どう進捗したのか、していないのか、原因は何なのか、今後どうしていくのかとかといった点検等行っていきたいと思っております。その点検結果につきましては、本委員会でご審議いただいて、さらには仙台市長をトップとする本部会議で総括の上、それぞれ公表していくことを考えております。

本プランの掲載事業一覧ということで、本編の 11 ページと 12 ページにプランで進行管理していく事業一覧が 60 数事業ほど載っております。以上でございます。

[風見委員長]

このことについての議事や意見交換はまとめてやりたいと思います。基本的な事項で何か今質問しておいたほうが、情報の共有としていいということがあればお受けします。

それでは、これは行政のプランとして、特に施策の連携という意味では、市民協働は全体に通じることなので、これがどう浸透するかということをモニタリングする上でも、抜けているものがないように、連携や相乗効果をどう生むかを後でチェックしていただければと思います。

3 議事

(1) 平成 27 年度の協働によるまちづくりの推進に関する取り組み実績について

[風見委員長]

それでは引き続いて、議事の 1 番、平成 27 年度の協働によるまちづくりの推進に関する取り組み実績について、ご説明お願いします。

〔事務局（市民協働推進課長）〕

それでは資料2の平成27年度の協働によるまちづくりの推進に関する取り組みの実績でございます。先ほど申し上げたプランのスタートは28年度からの事業を掲載しておりますので、このプランに基づく進行管理は、来年度からの評価になります。

基本的に先ほど申し上げたプラン掲載事業の60数事業について、昨年度はこうだったというものを掲載しております。

二部構成になっていまして、この60数事業の基本施策に関する事業はどちらかというと制度や環境づくりが中心になってございます。そういうものを幅広く推進することによって、市民協働事業である市と各団体が一緒に行う具体的な個別の事業が充実されていくだろうという立てつけになってございます。

まず、基本施策に関する事業ということで、27年度の実績を載せてございます。こちらは3分野ごとに通し番号を付けて、それぞれの取り組みに対して事業内容や、27年度に具体的に何をしたのか等を記載しております。

(1)の1分野目「市民活動の促進および市民協働の推進に関する事項」でございます。総括的に言いますと、各拠点施設における活動の場所の提供ですとか、研修・相談を実施したほか、専門家の派遣による助言、情報提供を行ってきました。

また、市民からの提案に基づく取り組みを推進するとともに、特に去年は東西線の開業というものがありましたので、その関連のプロジェクトによる人材の育成や市民センター等々でのさまざまな講座を通じて、多様な主体間の協働を推進するための人材の育成に取り組んだということがございます。

簡単に説明しますと、1つ目の「区役所のまちづくり拠点機能の強化」の27年度の実施状況としましては、それぞれ各区役所・総合支所の地域連携担当職員の活動の状況を載せております。2番目のサポセンや、3番目のエル・パーク、エル・ソーラ、4番目のボランティアセンター等々につきましては、それぞれ利用者数や開催講座数、ボランティアの登録団体数を実施状況として記載してございます。

5番目のまちづくり支援専門家派遣制度等では、12地区に派遣をしたほか、6番目の市民センターにおきましては、このようにさまざまな講座を実施し、資料記載のとおりの参加者となっております。

7番目は東西線関係で始まったWE SCHOOLで、昨年度育った卒業生たちが今年度いろいろ活動しておりますほか、5ページ目の10番目にある「ともにまちづくりを行える職員の育成」につきましては、新規採用職員の研修や、新任まちづくり担当職員の研修、市民活動団体へ職員を6名ほど派遣したという実績を載せてございます。

そして7ページ目からは、2分野目の政策形成過程への市民の参画の推進に関する事項となります。実施状況としては、市のホームページの充実に向けた準備・検討を進めたほか、2番目のオープンデータ化された件数は昨年度末で64件になったことや、3番目の地域情報ファイルの活用推進については小学校区単位で地域にどんな団体がいて、どういう活動

をしているかを載せた地域情報ファイルを最新のものに更新したことを載せております。

4番目のパブリックコメントの実施は、計画の改定がある年やない年などでばらつきはあります。昨年度は18件実施され、パブコメ1件あたり59.4件の意見が集まってございます。

そして、8ページ目の7番は障害者への適切な情報提供等々というところでございますが、障害者の差別解消の条例の制定に向けてのいわゆる市民カフェ的なものを、昨年度10回実施し、518人が参加されたというところです。そのほか、仙台市職員の対応要領も作成して、研修を行い、参加者が341人ということでございます。

10ページ目からは第3分野の「多様な主体による活動の促進に関する事項」でございます。こちらの2番目をご覧いただきますと、仙台ミラソンが昨年度は参加者数37名で6チームの若者たちがさまざまな課題に取り組んでおります。

4番目の「大学連携地域づくり事業」は泉区役所が近隣5大学と協定を結びながら、若者たちのパワーを生かしたまちづくりをしていますし、5番の学校支援地域本部事業におきましては、さまざまな地域の方々に関わっていただいている中で、学校支援ボランティアの延べ人数が9万人ちょっとになったということを実績として挙げてございます。

9番目の「地域力創造支援事業の推進」は、市民センターがコーディネーターとなり、町内会等々複数団体と連携しながら、地域課題の解決などを図るものでございますが、昨年度は11地区実施しました。ちなみに今年度は20地区まで拡大してございます。

10番目は町内会等住民自治組織育成事業ということで、町内会の研修や育成奨励金などの制度の対象世帯が40万ちょっとぐらいになっているというような状況でございます。

23番目の事業の区民協働まちづくり事業は、各区がそれぞれ特色を生かしながら、まちづくりをしていくういうものでございまして、企画事業と助成事業に分かれております。

企画事業につきましては、各区分との事業件数、まちづくり活動助成事業につきましては、区分ごとに助成件数等々を載せてございます。

つづいて21ページ目から市民協働事業になります。何を市民協働事業というかについては、市が町内会等の地域団体や市民活動団体、教育機関、企業などとお互いに主体性・当事者性を持って連携している事業であるということに加えて、営利を主たる目的とせず、地域課題の解決やまちの魅力の向上を図るための事業を市民協働事業としております。全局的にさまざま事業がございまして、とりまとめたところ、303事業ほどございました。

その事業分野と協働の相手方をグラフにしてございます。分野ごとの延べ数は、全体の半分くらいがまちづくりの分野で156事業、次いで文化・芸術・スポーツ・学術といったところですとか、健康福祉・医療といった分野が続いています。

協働の相手方につきましては、市民活動団体が154事業で、全体の半分くらいです。そして同じくらいの割合で、地域団体が入っています。そのほかは教育機関、企業、その他ということになってございます。

協働の形としては、さまざまあり、助成金を通じた協働や実行委員会に市が入っている

いろいろな団体と一緒に実施するという形態もございます。市との共催などによって実施された市民協働事業の一覧がその次のページから載ってございます。事業名と事業内容、27年度の実施状況、事業分野と協働の相手方、そして事業費はいくらだったかというような内容を記載してございます。

ちなみにその一番目の災害時応援協力に関する協定等の締結につきましては、災害時、何かあったときにお互い協力するというような内容になっております。企業、NPO、NGO 等との協定を締結したのが、昨年度末 169 件でございましたが、そのうち 17 件が 27 年度に締結されております。

こういった事業が各分野にわたって、303 事業ほど掲載してございます。説明は以上です。

○ [風見委員長]

大変膨大な資料をおまとめいただきました。市の全体の施策の中ですべてではないと思いますけど、協働によるまちづくりの推進ということについて、全貌をまとめていただけたということだと思います。

これから議論に入りますが、先ほどのプランに書かれていることと、この実績の話を合わせながら見ていただければと思います。最初に委員長として思ったのは、協働まちづくりとは何かと言ったときに、ひとつはこの市民局ベースの流れがあると思います。それと今回まとめていただいているように、都市整備局マターのものや、経済局マターのものなどをいろいろ見ていくと、環境系が少しつながりが弱いのかなとか思います。そういう印象をこれから言っていただきたいと思います。

また改めて見ると、先ほど申し上げた、アートについて意外と出てこないとか、トータルで見ると NPO 施策や WE SCHOOL は市民局中心ですが、どちらかと言うと、都市整備局や経済局はいろいろコラボはしていると思います。

○ コミュニティビジネス、ソーシャルビジネスの話もありました。これはどちらかと言うと、CSV（クリエイティング・シェアード・バリュー）のほうにいくんだと思いますし、市民とは何かとか、協働は誰と誰が主体として実現していくべきなのかとか、これを見るといろいろな視点が湧いてくると思います。

あと防災や高齢社会、子育てもありました。また、まちづくりフォーラムとか、要するにプラットフォームもありました。決してこの総花的に見ることではなくて、もう一度それぞれのお立場で強いところから切り込んでいただいて結構です。今までの実績ということと、これからの方針について意見を交わしていきたいと思います。

それではまだ資料見ながらでも結構ですけど、少し気になったところから挙手いただければと思います。其田委員からお願ひします。

[其田委員]

それでは質問させていただきます。平成27年度の協働によるまちづくりの推進に関する取り組みの実績の中で、事項で言うと(3)多様な主体による活動の促進に関する事項の4番目の大学連携地域づくり事業についてです。

この事業が、泉区に限定している理由は何かあるのでしょうか。例えば青葉区でも複数の大学がありますし、太白区やほかの形での展開の可能性もあり得るのではないかと思うのですが、その辺は何かあるのかのご質問でした。

[風見委員長]

事務局、どうぞ。

[事務局(市民協働推進課長)]

さまざま各地域に大学はあるかと思いますけども、特色ある取り組みのひとつとして、泉区でモデル事業的に展開をしているというような部分があります。こういう部分については、他の区でもさらなる広がり等々が、今後期待できるのかと考えてございます。

[風見委員長]

今の件については、泉区のまちづくり大学ネットワークの幹事長を私がやっています。泉区には5つの大学があり、その幹事役をしています。大学は意外と先生の連携はなく、学生をどうつなぐかということで、いろいろ助成金を出したりしてきました。

今、泉区は確かに頑張っていると思います。多分、その他いろいろなところで動きはあると思うので、そのあたりをこういう場でも拾い上げていただいて、成果などが必要だと思いますから、また情報交換していただければと思います。

泉区だけをやるという意味ではないと思うので、他にも本当にはないのかすくっておいていただいたほうがいいのかもしれません。私も泉区に関連しているので、それは見えますが、他の区がどうなのかなというのは気になるところです。庄司委員、どうぞ。

[庄司委員]

27年度の協働によるまちづくり推進に関する取り組み実績の5ページの職員の育成のところです。新規採用職員研修の楽しく協働を進めるための実践研修の内容と、この研修は新規採用の職員の方を対象にされたと思いますが、仙台市の職員とまちづくりに関わる多様な主体との合同でやれたらしいのかなと思っていました。

あと市民活動団体へ派遣された職員数6名とありますが、もう少し多くてもいいのではないかかなと思い、拝見いたしました。あとはやはり若者をターゲットにしている事業に、力を入れていらっしゃるのかなというところです。

〔風見委員長〕

それについては何か、事務局から補足ありますか。

〔事務局（市民協働推進課長）〕

楽しく協働を進めるための実践研修については、職員といろいろな活動をされている方が一緒になって、合同で研修していくというご提案でしょうか。

〔庄司委員〕

そうですね。こういう研修では仙台市職員は価値観としての協働を学ぶことはできると思いますが、そこに別な市民活動団体や町内会や企業の方が入ったときに、協働が同じ意味じゃないことを痛感すると思うので、そういう場もあったほうがいいかなと思いました。

〔事務局（市民協働推進課長）〕

この新採研修ではないですが、他の研修プログラムの中にそういうものもあったと思っております。市民活動団体の派遣研修の6人が少ないのではないかという点につきましては、この研修は実地でそういうお互いの価値観の違いや、強み弱みなどを身を持って体感するいい機会だと思っておりまして、今年度は対象を拡充して、20名ぐらいを市民活動団体の皆さんに受け入れていただいて、実体験の中で、そういう協働マインドのようなものの醸成や職員の人材育成をしていかなければと思いました。

〔庄司委員〕

仙台市の職員の方が市民活動団体の現場を知ることも重要だと思いますが、何日間行かれるかにもよりますが、事務作業が苦手な方もNPOには多いので、そういうところを行政の職員の方がサポートやアドバイスをしていただいたりするといいのかなと思いました。

〔風見委員長〕

現場を体験する何かの企画がいろいろあったような気がしますが、浸透すれば浸透するだけ、波及効果を及ぼすので、振り返りを一回やって終わりではなく、市民活動を支援する行政プランナーのキャリアプランがいるのではないかと思います。NPOだけではなくて、企業にも派遣したほうがいいと思うし、そういうプログラムはあるのでしょうか。

〔事務局（市民協働推進課長）〕

企業への派遣としては、例えば研修として民間企業体験研修というものがありますが、資料にある協働推進人材育成事業は、延べ5日間派遣するというものになってございまして、派遣終了後に、市民団体の方と派遣された職員とで、報告会を開催し、それぞれ成果

等々について話し合い、次なる展開等々についても話し合う機会も設けたりしております。

[風見委員長]

行政というのはいろいろな部署を経験するのである意味強みでも、課題でもあるので、いかにキャリアを積んでいくかということがあると思います。それぞれのキャリアパスを調べると、行政マンとしてもやりがいが出るのではないかなど思つたりもしますから、そのあたりをまた相談いただければと思います。ほかいかがでしょうか。伊勢委員。

[伊勢委員]

今の職員研修のことと、若者の育成についてお伺いしたいと思います。資料 5 ページの 10 のところに新任まちづくり担当職員への研修というところがあります。

まず新任まちづくり担当職員というのはどういう方たちを指すのかと、地域づくりを行うにあたって、新任の方だけでいいのかというところをお伺いしたいと思います。

新任の方たちがまちづくりの視点を持ったとしても、先輩職員との意識の差が生まれたときに、市民協働を進めていくにあたり、何か弊害というものが起こり得るのではないかなど想像しております。新任職員が意欲を持って研修で、学んで現場や役所の中でやろうと思ったときに、ほかの先輩職員との意識をどのようにすり合わせされているのかをお伺いしたいと思います。

あとはまちづくりを考えたときに、市民センターなどの社会教育施設の職員と行政職員との連携はどうなっているのかをお伺いしたいと思います。

2 つ目に 10 ページの若者の社会参画促進事業「仙台ミラソン」についてですが、地域課題に対して、解決策の企画立案に取り組むというところまで、ミラソンで行っていると思います。市としてどのように若者の意見を取り入れ、施策に反映する意志があるのかというところをお伺いできればと思っております。

[風見委員長]

事務局どうぞ。

[事務局（市民協働推進課長）]

新任まちづくり担当職員研修でございますが、対象としましては、各区のまちづくり推進課に新しく着任した職員や市民センターの職員が対象となって、その後もそれぞれの職場で、OJT やそのほかに研修所の人材育成のプログラムが多々ありますので、それぞれに参加するというような形も取っております。

それと市民センターの職員と行政職員の関わりというようなところはあるかと思います。平成 23 年に中央市民センターを市長部局に位置づけて、各区の中央市民センターでさらなる連携の促進も図りつつあるというようなところがございます。

それとミラソンが市の施策にどのくらい反映されるものなのかというところです。このミラソンの事業としましては、役所の施策に反映させることが、ゴールのすべてではなく、どちらかと言うと、こういったまちづくりに関わるような機会に触れる、その入り口になる気づきを得られる場にしたいということで考えております。もしかするとその展開によっては、何か行政施策になるものもあるかもしれません、基本は若者自らが何かやれることを考えて実施していくというような、そんな若者のまちづくりの入り口の部分、気づきの部分に関する機会を提供させていただこうという事業でございます。

[風見委員長]

はい、よろしいでしょうか。また別な視点ですね。佐々木委員、お願いします。

○ [佐々木委員]

質問というより感想になってしまいますが、この資料を見て改めて、いっぱいあるということを感じました。こういうものを短い、ショートPVみたいなのでもいいので、このテーブルでもどれがモデル事業かわからないとか、そういう議論をずっとしているので、何かできないのかなということを、感想として思いました。

[風見委員長]

プロモーションをこれからもどんどんかけていただければと思います。新任の職員研修だけではなくて、まちづくり系の行政プランナーをつくっていくためのキャリアパス、キャリアディベロップメントという意味では、いつどの時点でどういうことが起こらなくてはいけないのかという方針を、行政は持っているのかという議論があると思います。それに対して市民局としても、答えを持っていてほしいなと思います。

○ 欧米の例だと、ボストンなどはプランナーには部屋があって、専門職なので、それをずっとやっているわけです。行政プランナーといえども成果を出していかないと、とても厳しいですが、ある程度、専門職を育てるというのは、行政の中ではなかなか両立しにくい部分はよく承知しています。

いろいろな部署を周りながら、自分はまちづくりのことをできるのかなというキャリアプランを描ければ、そういう人にどんどん手を挙げてもらう。どういう系統の管理職になるというのもある程度適性と、本人の希望だけでは決まらないとは思います。

特にコミュニケーション能力などまちづくりをやる方にはある程度資質がいります。窓口のちょっとしたことで、市民の方が失望してしまうということも多々あるので、そういう意味ではそのキャリアディベロップメントというのに取り組むこともいいのではないかと思いました。小野委員、どうぞ。

[小野委員]

私も件数の多さに非常にびっくりしました。まず初歩的な質問ですが、仙台市のこれだけの実績が世の中的に、非常に多いほうなのか、一般的なものなのかというのがわからぬいので、ご教示いただきたいと思います。

もう1件は、仙台市のホームページの充実ということで、今年度リニューアルをされるというお話をについてです。

昨年のあの研修の内容を拝見しますと、情報システム部門の方向けの研修が中心だったのかな?と思われました。仙台市のホームページでいろいろ情報発信をしていくときに、効果的なコミュニケーションという視点から、実際に掲載記事を作成する方の教育も必要ではないかと感じました。また、ターゲットをどのように設定されるのかについても興味があります。高齢者向けにホームページだけで本当にいけるのか?とかいう問題もあると思います。ホームページだけではない、もう少し幅広い、いろんなメディアが出てきてもよいと思いましたので、どのような感じのリニューアルを想定されているのかを、可能な範囲で教えていただければと思います。

[風見委員長]

なかなかいい質問ですね。

[事務局(市民協働推進課長)]

市民協働事業数が303と出ていますが、多いのか少ないのかは他都市でなかなかここまでやっているところもなかつたりしますので、まず我々の目的としては、今回とにかく見える化していくというところで、体系立てて、すべてお出したところでございまして、数としてどうかということは、今のところ申し上げられないところでございます。

それとホームページの充実ということで、よりアクセスしやすく内容も質も充実したものを発信しやすくしていく中で、確かにSNSなどの活用という部分もありますけども、ホームページについて言えば、迅速性という意味で、各課単位ですぐに出せるようなホームページにしたり、内容についても、例えば視覚障害者の方向けの読み上げ機能などのソフトに対応できるような画面のつくりをするなど、充実を図っているというところでございます。

[風見委員長]

実績の評価の比較は難しいと思いますが、それなりに各自治体の基準が違うと思います。一回比較してみて、それなりの資料があったほうがいいような気がします。今の質問はよく出そうな質問ですね。

ただ、むしろそれがどういう形で正確に市民や社会に伝わっているかということのほうが重要で、ある意味でもっとやっている自治体があったとしても、知られていないという

ことはとてももったいないことなので、政策のプロモーションはとても重要です。もう一つ言うと、どのように自己評価や社会的な評価に値するのかということがないとその成果とは言えないと思います。

特に今度の「推進プラン 2016」については、今までの実績があって、目標管理としてどこまで到達できたから、次はこれ延ばそうとか、これは縮小しようとかやるわけですね。政策にもアカウンタビリティはあると思います。

基本的にPDCAのサイクル回したときに、どういうプランにして、何を持って評価とするのかというのは、今後手入れを含めてしっかりやっておかないといけないと思います。

多分相当の成果を出せると思いますので、それだけにしっかり訴えて、政策を決めるということは、実績問われる所以、そのところのリンクをもう少し進めておいてもらえるといいかなと思います。

もしいったん区切らせていただいてよろしければ、この資料については、とても膨大なので、もう一度帰って見返していただきたいと思います。特に「推進プラン 2016」については、協働の基本理念の自立・連携・創発について各施策がどうつながっているかについて、最終的にPDCAで言うゴールに対してどうなのかということを問わなくてはいけないという意味ではもう一度、施策を皆さんにも見ていただいて、行政のほうもしっかりと説明できるように、成果を見る形にしていっていただければと思います。

それでは引き続き、この資料を勉強していただいて、ぜひご意見をいただきたいと思います。

(2) アクションチームの検討状況について

[風見委員長]

それではもう1つの議事のアクションチームの検討状況についてということで、アクションチームに集まっていたとき、いろいろ進めていただいているとありますし、必要な人材も少し増やしながら、進めていると思いますので、其田委員から報告をお願いします。

[其田委員]

それでは私のほうから、アクションチームの検討状況について報告させていただきます。アクションチーム打ち合わせの2回目は先週の8月25日木曜日に実施しております。今回の参加メンバーはアクションチームのメンバーに加えサポーターということで、2名ほど協力していただいた方がいらっしゃいます。さらに、サポセンの副センター長に同席していただきながら、打ち合わせを行いました。

資料3をご覧いただきながら、簡単にご紹介させていただきます。1つはコンセプトについて、もう1つはサポセンのソフト面とハード面について議論を行いながらアイディア出

しがメインになりました。

A3の用紙で、サポセンの見取り図が1階から上の階まで描かれている資料がございます。こちらの資料をもとに、ハード面は1階からすべての階について、少し改善すべき点、あるいは大幅に改善すべき点の打ち合わせを行いました。

ソフト面も大事ですので、サポセンに期待される機能について、いくつかコンセプトにつながる話も出させていただきながら、いわゆるサポセンの機能強化についての話題で、第2回も終了したというところが現状でございます。他の委員の方からの補足もよろしくお願ひいたします。以上です。

[風見委員長]

それでは議論も進んできていますので、アクションチームのほうから補足いただければと思いますけど。佐々木委員はいかがですか。

[佐々木委員]

1つ補足させていただくと、いろいろ考えていく中で、サポセンの若手スタッフを交えてやっていくということが全員の了解を取れていたと思います。

行政と我々だけで決めて、サポセンのスタッフにやらせるのではなくて、考える段階からスタッフのメンバーも入って一緒にやるということを、全員で合意したはずですので、そのことを付け加えさせていただきたいと思います。

[風見委員長]

庄司委員はいかがですか。

[庄司委員]

オブザーバーで東北学院大学の櫻井先生や、東北ソーシャルデザイン研究所の大向さんに入っていていただいて、どのくらいの規模のリノベーションがどのくらいの金額がかかるのかといった具体的なこともお話しいただいたので、我々も少し現実に戻った上で、議論できたのではないかと思います。最終的に本当に形を変えるっていう意味では、その建築はどうしても外側に何かをつけるのは難しいとか、全部を変えるのは難しいということで、せっかくの限られた予算なので、1階にある程度集中してもいいのではないかというようなお話になり、私も少しイメージが具体的になってよかったです。

コンセプトをもう少し明確にしたほうがいいのではないかというところで、創発というものに関して、創発とはまだ生まれてない、誰もまだやっていないことであるべきというのはわかるのですが、もう少し共通のイメージがあったほうがいいのではないかと思いますので、今日はぜひ風見先生にいろいろな世界的な事例ですとか、創発というとどういうことがあるのかなんていうこともお聞きしたいです。

〔風見委員長〕

ひとつは今お話に出たように、コンセプトがとても重要だと思います。あとソフトとハードを同時にやらなくてはいけないという、ある意味ジレンマでもあるんですが。

プロジェクトである以上、TQCとよくいいますけど、時間とお金とどのくらいの質のものを、どのくらいのお金でいつまでやるかという議論なので、今日は最終的にスケジューリングをもう一度確認したいというふうに思います。

そのためにはやはりコンセプトがまず最初で、そのコンセプトがしっかりとしていないと、できたときにこんなものとなるので、コンセプトを少し議論していただきたいのと同時に、オペレーションなどのソフト面など、サポセンの機能として、弱いところ、強いところ、あと1階のその吹き抜け空間をどのくらい変えられるかということだと思います。

原さんの建築もあるので、そう簡単にあのテイストを変えることはできないと思いますが、内装であったり、カフェという機能など、そのコンセプトをもうひと頑張りしてつくっていただきたい、そういうコンセプトに裏づけされたソフトを考えていただきたい、そのときにぜひサポセンのスタッフの皆さんと、今の現状を一緒に変えていくということが大事だと思います。

そういう現状を開拓するっていうパワーと、新しいアイディアやチャレンジが創発だと思うので、そのところをアクションチームにもうひと踏ん張りしていただければと思います。

私が今まで見てきた事例で、ひとつ参考になるのは今回のケースで言えば、ロンドンのデザインセンターです。価値というのはデザインに現れるところがあるので、アートもそうですし、ひとつの製品や、そういうものを生み出す機能があってもいいのかなと思います。これは印象ですけど。デザインというのは単にプロダクトだけではなくて、ソーシャルデザインとか、プロダクトデザインとかいろいろなものがあると思います。そういう意味ではコンテンツもデザインだし、そういうデザインで付加価値を与えて、市民協働やいろんなコラボレーションがどう起こるかという場所になってほしいです。

NPOがインキュベートしてきた機能はもちろんあるし、全館としてはそのイメージがあつていいと思いますが、それらの活動が飛び立つためにもそういうデザイン力や、アートなどの機能を加えていけば、その創発も伸びていくのではという議論でいいのではないかと思います。

それとこの委員会ずっとやってきたマルチステークホルダーのガバナンスは何なのかということで、世田谷区で言えばまちづくりセンターがありますし、古い話ですが、長浜で言えばまちづくり役場がある、そういう行政のファンクションがない、市民、産官学民が集まる拠点は何かという、デザインがいると思います。そのあたりで議論いただければ、間違った方向に行かないのではないかという気がしていました。

デザインという言葉がいいかどうかわかりませんが、デザインやコラボレーションという新しい価値を生み出す場ということでやりたいというふうには思っていました。

それでは、実際どう進めていったらしいかということで、まず意見を交わせたらと思います。伊勢委員、どうぞ。

[伊勢委員]

このサポセンの機能強化というところで、ハード面、ソフト面というところがありましたが、その中にスタッフの人材育成という議論というのはどの程度含まれているのか、教えていただければと思います。

[風見委員長]

其田委員お願いします。

[其田委員]

例えばサポセンの開館時間帯の変更により、スタッフの勤務時間帯が変わるといった話は少し出ました。サポセンのスタッフを交えて、ソフト面やハード面をこれからどうバージョンアップを図っていくかということがメインの内容にはなってはいます。

[佐々木委員]

今の其田さんに補足しますと、人材育成の前に、サポセンスタッフのモチベーションが高められるようにしないと、この改革はそもそも厳しいよという話はしていました。まずは働いている皆さんのが心から創発したい、協働したい、そういう場をつくる、まさに公共の広場の場づくりがまず大事だということなので、人材育成をどうするかというところまで話はまだいっていないというのが現状です。

[風見委員長]

特に NPO という生き方が、阪神大震災以降定着してきて、それが本当に人生をかけるに値するかみたいなところに直面しているんだと思います。ボランティアとコミュニティビジネスはまさにそういう分野なんですが。

社会貢献と利益をどう生み出すかということでは、サポセンが今まで果たしてきた機能に加えてそれをどうスタートアップし、レベルアップして、産官学民というものがうまく連携することで、付加価値が上がって商品化になるということは実際にあるわけです。

あと、シリコンバレーも要するに、いろいろな異分野の人たちが集まる、カフェの機能があって、そこから生まれたともいわれています。

そういうことはある程度感性でつくっていかなくてはいけないところもあるし、そこにプラットフォームをつくるだけではなくて、創発的なプロジェクトを生んでいかないと、走っていかないので、人材育成と携わる人たちのやりがいや、経済的な自立もとても重要なことで、そういうところの促進みたいなものも議論いただけるといいなと思います。

島田委員、いかがですか。何か今ご意見でもあれば。

〔島田委員〕

私は地域で活動しているわけですが、正直サポセンはほとんど利用したことはないです。多分、私のところの青葉区の連合町内会長協議会の人たちも、それから各区の区連協の人たちも利用したことがないのではないかと思います。何かすごくもったいないなとは思っていますが、地域では市民センターやそういうところがあるので、どうしてもそちらを利用するようになってしまいます。もう少し周知徹底なども必要なのかなと思ったりしています。

○ 1の事業のほうも、本当にいろいろな事業があって、むしろ私たちはこちらのほうで、ずっと見ただけでも何十かの事業に関わりを持っていて、こんなに関わっていたんだと思って、びっくりして頼もしくも、また嬉しくも思っているところです。

これから地域づくりを進める上で、いろいろな団体からも支援いただいて、協力していくわけですけど、今まで私たちは、まちづくり推進課の人たちと一緒にになって、地域づくりを進めてきました。今のまちづくり推進課には地域連携担当職員がいまして、新しい人たちばかりでなくて、退職して再任用した職員や現役でずっとやっていた職員もバランスよくいて、相談に行っても大変やりやすいという面もあります。

また先ほど泉区で大学と連携しているということもありましたけど、私たち青葉区でも全体としてではなくて、連合町内会単位で、例えば桜ヶ丘は宮城学院大学と連携して、いろんな活動をしておりまますし、国見とか八幡地区は東北福祉大学と一緒にになって、防災などを中心にしたまちづくりをやっていますから、これからもどれだけいろいろなところと連携してできるかなと楽しみもあるし、不安な面もあるのが現状です。

〔風見委員長〕

○ はい、ありがとうございます。今使えないっていうその理由っていうのは、例えば価格帯とかその機能とかが、その市民センターで事足りるからとか、そのあたりどうなんでしょうね。

〔島田委員〕

そこでどういう活動をするかということ自体が、多分地域ではわかっていないと思います。私が一番はじめに行ったのはパブリックコメントのときですが、それを地域でどうやって活用しようかということまでは、なかなか考えられませんでした。

〔風見委員長〕

そういう意味ではサポセン側からすると、どんな利用者をイメージして、それに対してどういう機能を持っているかということが次に來るので、その機能が合っていれば、利用

していただけたわけですよね。特に町内会とか地域活動においては、市民センターがもし
かしたら手厚さやつながりがあるかもしれません。

だからそういう意味では、市民センターの役割とサポセンやそれぞれのインキュベーシ
ョンセンターなどを仙台市がどのくらい持っているのかというのを一回整理しなきゃいけ
ないのではないかと、ずっと思っています。そのあたりの役割分担の中で、サポセンがど
の機能を果たすのかというのも、ここで議論していくかなくてはいけないのでしょうね。

果たしている機能とこれから果たすべき機能と両方あると思いますが、それは期待を込
めて、この中で議論いただければいいし、今までやってきたことについては、オブザーバ
ーで菊地センター長がいるので、これ委員長権限で発言いただいてもいいですか。

今サポセンとしてどういう利用者に対して、どんなサービスをしているのか。これから
改革をしていくときに、どんな内部的な議論があるのかということについて少し情報をい
ただけたらと思います。

[市民活動サポートセンターセンター長]

顧客についてということで考えると、実際ご利用いただいている方は、こちらの記録と
しても6万人ということが出ているかとは思います。

利用されている方も貸室のほうが多く、施設の中に貸室というハードのサービスである
とか、相談のサービスであるとか、情報のサービスであるとか、事業のサービスであると
か、大体そういう機能があるんですけども、そのひとつの機能しか知らないまま、ほか
の機能があることを全く知らないというような利用者も多いという状況はございます。

内部でもそのあたりは議論になっていまして、その情報の周知の仕方としまして、施設
の場を使いながら利用者のセグメントを行っています。例えば外壁であれば、無関心な方
も通る。そこから一歩入って風除室にはほぼ利用者が100%通るとか、そこから一歩入って
行くと、かなりコアな層の人しか見ないとか、そういう場のセグメントと、利用者のセ
グメントを行いながら、そこに適切な情報の出し方を行っていこうという、ある種の広報
戦略的なところを今改めて取り組んでいる最中でございます。

[風見委員長]

あと今日の改革の議論を考えたときに、内部的には、大体同じ方向なのか、さらに何か
改革したい点があれば、それも含めて議論したいと思います。

[市民活動サポートセンターセンター長]

個人的にはすごくわくわくする、面白い部分があるというところと、やはりマネジメン
トの部分もどうしても考えざるを得ないというところはございますので、そことのバラン
スをどう取っていくかということにつきましては、やはりいろいろと議論はしていきたい
ところと考えております。

またサポートセンターの若手スタッフを入れて検討すべきというところにつきましては、やはり個人個人としてかなりいろいろなスキルとかスタイルを持ったスタッフがおりますので、そういった人材の力をまた違った形で生かしていく、それらをコラボさせていくとというのは非常に楽しみだなというふうに思っております。

[風見委員長]

やはり現場の方がいきいきする職場をつくれない限りは、機能は絶対伸びていかないので、現場の中でこのあたりが足りないのでないかなということを、ぜひアクションチームと一緒に動いていただきつつ、現場の声を吸い上げていただきたいと思います。現場とは全然すり合わない改革はとても不毛なので、現場の声を踏まえてこの改革路線をうまくつないでいただきたいと思います。

今、島田委員からありましたように、やはり PR が足りていないということについては、プロモーションというのは、どこに何の情報を届けるかなんです。ですからもう一度サポセンもどういう人たちに、どういう機能をサービスしようとしているのかということをサポセンの内部でもまとめてほしいし、このアクションチームでもそれはどうあるべきなのか議論してほしいと思います。必要な機能を入れるということは現場もオーケーだと思います。

ただやはり頑張ってきたところは頑張ってきたところ、直すべきところは直すところということで、評価してあげないと、一方的な我々の改革路線だという気は全くないので、この議論も踏まえて、より具体的な、新しいファンクションとどういう人たちの何のためのセンターに、サポセンがなるのかということを、市民の意見も交えながら考えてほしいと思います。

ただ、たたき台をつくらないと意見が出ませんので、たたき台をつくっていただきたいと思います。たたき台なので叩かれることを承知で、完成品をつくるということは全く必要ないと思いますので、素案を 10 月ぐらいまでにつくっておいて、それをベースに 11 月ぐらいに、市民の方と一緒に議論をするとか、巻き込んでいく中で、市民の人も入っていただければ、サポセンに対する期待も出るでしょうし、それを基に利用していただけるというのもあります。我々として協働まちづくりとは何かということの拠点をどうつくるかという議論も必要なので、それは両方折り合っていかなければならない話だと思います。

[島田委員]

先ほど市民センターの話で、平成 23 年に教育局から各区に移行したわけですが、たまたま私はそのときに公民館運営審議会の委員をやっていました。そして震災を挟んで、それまで社会教育を中心とした運営だったんですけど、それを地域を持って行って、地域課題をいかに吸い上げて、その地域を巻き込んだ活動をするかということを中心に、変えようということになったんです。

その中で評価ということが大きく取り上げられました。誰が何を評価するというのは、市民センターの活動を公運審の委員が評価するというものでした。やはりいろいろな活動をして、それを評価して、次の活動につなげていくという、その評価はすごく大事だなと思っています。

[風見委員長]

評価はやはり自己評価がまず最初だと思うのですが、第三者評価が必ず入らないと、本物ではないですよね。それは単に厳しい意見ということではなくて、自分の客観性を保つというところが重要だと思います。

ただ、誰が評価するのか、何をもって評価するのかというのは、引き続き議論していくだければと思います。浜委員、いかがですか。

[浜委員]

やはり市民活動とは何か、サポートセンターは何かという本当に簡単なところから、簡単な言葉で市民に広く知ってもらうことが一番大事なのではないかなとお話を聞いて思いました。

例えば私は「のびすく仙台」という施設をよく利用します。それは赤ちゃんを連れて行ける、遊べるところみたいな感じで、本当に気軽に何のためらいもなく入って行けます。いろんなママが使っているんですけど、そういう形の何か自然に入って行ける施設になればいいのではないかというふうに聞いていて思いました。

あとはそのためには、そこはこういう人が使えるというのを簡単な言葉で、どんどん発信していくということが大事なのではないかなと思いました。発信は例えばテレビとかインターネットテレビとかだけではなくて、ここにいるメンバーみんなができたりするので、早速、今日発信しようかなと、市民として思っていました。

[風見委員長]

やはり発信というのは、その届ける内容が誰のためかと、わかりやすくないとダメなんです。広報というのはすべてそうで、わかりやすい言葉で発信してなければ、発信したことにはならないんです。

そういう意味でも単にインターネットの時代だから、インターネットだけやっていたら絶対重要なお客さんを逃しますし、それぞれの発信についても次回以降も含めて、議論いただければと思います。特に専門でもあるので、そのあたりぜひ浜委員には期待したいと思います。大橋委員、いかがですか。

[大橋副委員長]

全体的なところで、ずっとモヤモヤしていますのが、今回の計画もこれから 4 年後がい

ったんの締めだと思うのですが、その4年後に仙台市として今までの市民活動とまた違った新しいステージを行ったという、イメージがどこにあるのかなというところが、自分の中ではモヤモヤしているのが今の状況かなと思っています。

もともとの議論の経緯で言うと、サポセンの条例ができたときには、仙台市が先行的な地域になったけれども、段々周回遅れになってきたというような、そんな議論があったと思います。その問題意識が出たときに、4年後にどうなっていればいいのかなというイメージがどういうところなのかなというところで、モヤモヤ感が残っているかなというのが正直あります。

具体的にみんながどういうことを目指していく、それを例えれば数値的な目標であれば、どういうところになるのかとか、そういう議論がブレイクダウンされていくと、必然的にもっと議論も具体的になっていくのかなということをずっと考えておりました。

一方でどういう姿がみんなで共有できるのかというところに関しては、自分もすごく手探りをしているような状況であります。

ただ、今回計画は1期と2期と分かれていて、2期が31年から始まるという話がありましたので、そのタイミングでまた必要なことは追加したりとか、できるタイミングかなだと思いますので、やりながら進めていくというのはひとつかなというふうには考えておりました。

[風見委員長]

それについて事務局何かございますか。仙台市として何かゴールとして、今日お答えいまだかなくてもいいと思いますけど、協働まちづくりのどこまでをゴールとして、第一段階として見るのかというのは必要なことだろうと思います。

ただ、それは市の政策であって、市民協働の政策の難しさは政策を打ち出すと同時に、創発的なものというのは、意図的に計画すると創発ではないので、そのあたりが難しいところなので、まずはプラットフォームをつくることだと思います。

その中で専門家とか、アクションチーム、さらに市民がいろいろ自由に入ってきて、その議論が練れて一つになったときが初めてビジョンだと思います。ただ、仙台市としてどうかというのはこの委員会では、シェアしておきたいことでもあるので、また次回以降、それについて庁内でどんな議論があるか、またご提示いただければというふうに思います。

それではあとスケジュールなんですが、スケジュールについてはどうですか。

[事務局（市民協働推進課長）]

サポセンの機能強化というところでのスケジュールでございますが、委員長からも予算要求とか、そういった役所ならではの仕組みがある中で、大体10月ぐらいには次年度の予算的なものを固めていきたいと思っております。そこからすると大体そのあたりには絵が描けていて、概算でこれをやるとこのくらいだとか、ここまでやるとこのくらいかかるだ

とか、そういったあたりが必要かとは思っております。

それに向けて、どう組み立てて、そこで終わりではなくて、さらに先生がおっしゃるよ
うに、市民を巻き込んで、加えていくというような、流れがいいかと思っておりました。

[風見委員長]

今のスケジュール感とかプロセスについては、其田委員、どうですか。

[其田委員]

第2回のアクションチーム打ち合わせでも今後のスケジュールのことは気にしておりま
した。ひとつ10月というのはポイントかなとは思っております。次回の委員会までにたた
き台として、ペーパーをご用意できるような段階までいきたいという目標はあります。そ
れから運営のことについて質問があります。例えばサポセンのスタッフの方がアクション
チームの中に入るということなんですが、入るという意味は、この4人のアクションチ
ームメンバーの追加の5人目として入るのか、それともサポートーとして入るのか、今後我々
のアクションチームでそれぞれ呼んで来る方の位置づけというものの確認をしたいです。

このアクションチームのサポートーとして、毎回スポット的に参加をしていただくよう
なイメージでよろしいでしょうか。この辺はルールが決められていないところだと思いま
すので、共通認識を皆さんで共有させていただきたいなと思っておりました。

[風見委員長]

はい、重要なポイントですね。それについては何か、事務局からありますか。

[事務局（市民協働推進課長）]

アクションチームということで4名のメンバーの方になりましたので、アクションチ
ームはこの方たちがまさにアクションチームで、今後いろいろ進めていく中で、絵を描ける
人や、それぞれの専門分野でご意見いただける方もいるでしょうし、サポセンの機能強化
だけではなくて、今後手引きなどもつくる中でもまた専門家的な方やたちが、得意
な方たちがスポットで関わっていくと思います。

ただ、やはり中核となるのはこの4名のメンバーのアクションチームでやっていき、そ
れについて本委員会にご報告して回していくというイメージだと思っております。

[佐々木委員]

1つだけ確認をしたいんですけども、これからアクションチームで議論をしていくその
モチベーションにも関わることですが、予算請求をするにあたって、どこまでをするのか
を教えていただきたいです。図面だけを描く予算を請求する予定なのか、それとも来年具
体的に何かをつくって、見える化をするというところまでやるのかということで、アクシ

ヨンチームの議論と力の入れようも変わってくるとは思います。

その心積もりというか、我々もある程度覚悟して、時間取って議論に参加しなくてはいけないと思います。その辺をわかる範囲でいいので、教えていただきたいなと思います。

〔事務局（市民協働推進課長）〕

どの程度の絵になるかというかというところにもよるかと思いますので、できるものは今年度の予算の範囲内でやれるものもあるかもしれませんし、来年度予算ということであれば、どのくらいの規模で、設計だけやるかとか、実際何か手を加えるかとか、いろいろあるかと思います。

基本は予算の編成なので、全体の予算の中でどうしていくかということになるので、ここで来年ここまでやりますとかというのがお話はできません。

○ 目指すところがあつて、年次計画を立てるなりして、来年ここまでやりましょうというのは、その後の実際の予算編成とも絡めながらどこまでできていくかというところはあるかと思います。とにかくゴールとしてはこういったものがほしいというのは、つくっていきたいと思っております。

〔風見委員長〕

今の話を総括すると、1つはメンバーで、アクションチームは今のアクションチームとしてはそれで固定でいいと思います。

それで、あとサポーターという言い方にするかはわかりませんけど、一緒に動いていただけるとか、絵を描いていただくとか、ソフト面でご意見を提案していただくとか、運営面で専門的な意見がほしいとか、そういう形でアクションチームとつくっていくという形でいいのではないかでしょうか。

○ その上でサポセンのメンバーは菊地センター長も含めて、必要な方々が出ていただければと思います。ある意味ではオブザーバーなのではないですかね。オブザーバーがどういう意味かと言うと、例えばまちづくりの委員会をやるときには、まちづくり協議会の代表などがオブザーバーというケースがよくあります。その方が当事者なので、その地域のプランをつくって、地元に帰っていただくときに、そこに入ってしまうと、その意思決定に参加してしまうことになるので、そうならない意味でオブザーブというのはとても意味があります。

そこで決まったことと、持ち帰るところのコーディネートをするというところもあるかもしれませんけど。そういう意味で菊地センター長も、そういう両方の立場で入らなきゃいけないと思うので、オブザーバーにしておくといいのではないかなという気がします。

オブザーバーとして現状を訴えていただいたら、同じようにアイディアを言っていただいたらしくして、まとめる責任はアクションチームにあるというほうが、サポセン側としてもいいと思います。その中でまた持ち帰ったときに、また議論をやり取りすればいいと思

ます。

必要な専門的な知識が必要な場合には、サポーターのような方を入れていくといでのいいのではないでしょうか。

今後のスケジュールですけど、このプロジェクトはやはりサポセンがどうなるかというのはとても大きな成果になると思います。行政ですから確約はできないので、その答弁はよくわかりますが。

基本的には10月までに、今日の議論も踏まえて、そのサポセンが現状でどんな課題があり、どういう機能になるべきなのかということを、サポセン側の意見もいただきながら、アクションチームでこれからのコンセプトや、ファンクション、ソフト・ハードについて議論いただいて、10月中旬ぐらいまでに、一つのたたき台のような絵を、一応の決めうちで描いてしまえばいいと思います。

ただ、外壁をどうするということではなくて、中のファンクションをどう刷新するかということであれば、予算的にもそれなりに、リーズナブルに収まっていくと思います。絵を描かないと予算が立たないので、1回やっていただいて、それを事務局のほうで、来年どのくらいの工事でどんな基本設計、実設計をすればいいのかというストーリーをつくっていただいて、できれば来年着工して、形の見えるようにしてほしいと思います。

逆に言えば来年いっぱいどこまで形ができるかっていうことでどんな工事なり、計画ができるのかということのほうがいいのではないかと思う。今期である程度、結論を見るということで、それがもし広がっていった場合には、段階的な計画でいいと思います。

1階、2階ができた後に、上層階をどう変えるかということは、次でもいいと思います。フラッグシップとしてサポセンがどう変わるか、協働まちづくりの拠点がどうなるかというのを、ある程度の形を示していくことが、この委員会だと思います。

アクションチームには大変タイトなスケジュールになりますけど、多分11月にそのたたき台をベースに、市民の意見も入れていただいて、一緒に議論していくことですので、全部のその責任がここにあるというよりは、むしろ仙台市民全体を巻き込んで、サポセンのリノベーションについて、特に1・2階に照準が当たると思いますけど、具体的な議論をしていただければというふうに思います。

10月中旬ぐらいを目標に、コンセプトとソフト・ハードを含めたたたき台を出していただければというふうに思います、いかがでしょうか。そういうことで整理をさせていただきました。

4 その他

[風見委員長]

それではその他何かありますか。いつも私は委員会のときに最後、事務局の代表の方に

意見をいただきたいと思っていますので、局長、次長から一言ずつどうぞ。

[事務局（市民局次長兼協働まちづくり推進部長）]

今日は本当にさまざまな視点からのご議論ありがとうございました。この協働の基本理念のキーワードにございますように、創発を今後いかにつくれていくのかというのが、大きな、私たちに課せられた使命かなというふうに思っています。

今日の議論の中でも多くのご意見をいただいたのが、やはり協働ができる職員の人材育成というところだったかと思います。これはやはり昔の条例のときからの課題で、常にご意見をいただきていきましたが、この条例やプランができたタイミングで、ぜひとも加速していきたいと思っています。

○ 今日いただいたご意見を踏まえて、来年度のところで何かまた新しいことができるのかということについては、考えていきたいと思いますし、あとは今いろいろなNPOの皆さんのが職員を受け入れてくださっていますので、そういった具体的な場をもっと増やさせていたらいいかなと考えています。

あとは、創発を進めていく場ということで、サポセンへのご意見をいただいているところですが、やはり役所の全体の予算の中で、できることというのは一挙にはできないので、ある程度長い目で見直していくことにはなろうかなとは思います。

ある意味、スケジュール感もアクションチームの皆さんでお話し合いをしていただいて、あとは役所で引き受けて、庁内の調整を進めて、責任持って予算化していくこともありますが、まずは自由な観点からご意見をいただきたいと思います。

異なる主体の交流が生まれて、そこに若い方々も入っていただくとか、その町内会の皆さんにも入っていただくとか、そういうことで何か新しいまちづくりができるような場にしていけたらいいなど、私たちも考えておりますので、これからもご助力をいただきたいと思っております。以上でございます。

○ [事務局（市民局長）]

2時間で非常に密度の高いご意見を出していただきまして、大変ありがとうございます。前段で人材育成や研修、人事の話で印象に残った部分ですが、基本的にはジェネラリスト養成で、3年から5年周期の人事異動をずっとやってきています。

たまたま税のプロになったり、福祉のプロになったりという回り方をしている場合が多いですが、区役所の経験をしていない職員も結構います。区や地域のまちづくり現場に近いところと、本庁とでうまく回るといいという意見はよく出ますが、必ずしもそのように回せていないというところもあります。

そして協働の経験ができるところをそれぞれ体験しているかというと、していない人もかなりいるはずです。人材育成や人事異動の観点では協働というのも多様な経験の要素になると思います。人事異動のときに、協働の体験もできるような異動のさせ方を、少し働

きかけていく必要があるのかなという認識を持ちました。

人材育成では、NPO留学を始めたばかりですが、民間では確か接遇研修でデパートに行っていたときもあります。それ以外はなかなか、経験の研修はやれていなかったのかなという気もします。我々の企画もありますけど、研修所の研修メニューもどんどん増える一方で、その中にこういう協働の路線、考え方、視点をどんどん入れて行く必要があるのかなということを思いました。

それから情報発信ですが、こちら側は正しい情報を詳しく伝えたいがために、逆にわからにくかったり、それから知りたい情報を探しやすいように持つて行くべきなのに、なかなか探しにくい、検索しにくいというのがよく聞かれる話です。ホームページのリニューアルは今年やっていますけど。

いろいろな形で伝えることは、むしろ最近は学生の皆さんや民間の皆さんのはうがどんどん上回っている世界なのかなという認識はありますので、その辺はどんどん変えていく必要がある分野なのかなと思ってございます。

それからサポセンですが、基本的にやはり市民活動を一生懸命やっている特別な人たちだけが使う施設という印象まだまだ残っているだろうと思います。例えば地域でこんな課題を解決したいというときには、とりあえず行くのは区役所のまちづくり推進課であったり、一番近い市民センターです。

サポセンのアピールも当然大事ですが、市民センターやまちづくり推進課の職員から、「一緒にやっていったら、うまくいくかもしれない団体の存在を知りたければサポセンというところに行くと情報あるかも」という紹介の仕方もあるかもしれません。そういう一番地域の皆さんと交流している職員のはうから、サポセンをどんどん伝えていくというやり方もあるのかなと思いました。

課題解決のために、つてを探している人に紹介するとか、あるいは何かこんな取り組みしているところありませんかねというのを、地域連携担当職員が一緒に行くとか、そういうやり方もあるのかなと聞いていて思いました。

それから予算の話で、ハードの予算を中心にお話ししますと、いろんな施設がすべて老朽化で修繕したいという時代で、これは全国的な話でございます。普通の建物は大体何十年使えるというところから逆算して、この時期にはこんな修繕が必要というのは、全局的に今やっているところでございます。

借りているサポセンという施設は、その中でも老朽化はずっと進んでいない施設のはうだと思います。ほかにもっと何とかしてほしいという施設が、実はスポーツ施設や学校の体育館などいっぱいあります。

その中でこの協働の事業を進めるために、サポセンは必要性が高いので、こういう予算をかけて、その効果を狙うためにこの予算を獲得するというくらいの必要性を強調して予算要求に持つていかないと、なかなか獲得が大変だという本音もありますので、我々もその獲得に当然努力いたしますが、そのあたりの効果が見えやすい案がいただけすると非常に

助かるというところはあります。

先ほどもお話しいたしました協働の4年後の話というのを明確にお話しできるわけではありませんが、どんな課題にあたっても、これは役所だけではなくて、多様な団体のこういう専門的な、あるいは強みを生かしたら対応できるかもしれませんと、自然な発想として各職員がそうなっていけるようになっていれば、素晴らしいのかなと思います。

そのあたりはこれから新しい条例を基に始まる取り組みの中で努力していく部分なのかなと思ったところでございます。今日はありがとうございました。

[風見委員長]

ありがとうございます。今のいくつかの議論について私なりにコメントをしておくと、まず公共施設管理の総合計画はどのように適正化していくという意味では、どうしてもやはり守りの政策になります。

私もいろんなところで指導しているのは、そういう守りは必要だけど、政策的には緊急ではないけど、重要なものはとても重要なんです。

重要なのは、施設が本当に出すべきポテンシャルを出せていないかということのほうが重要なわけです。要するにリソースマネジメントです。それを考えるとサポセンの持っているポテンシャルを使わないということは、負の財産なので、それをどのように転換するか、それによって市民の満足度や経済活動がこれだけ伸びるというシミュレーションでしかないですから、その戦略をやらなかったら、攻めの都市経営はできないと思います。ただ、市民局という立場からすると、そういう財政負担の中ではとても立場が弱いとは思います。

やはり市民協働というのは、重要な仙台市の未来をつくると思います。前期の委員会からつくってきた、自立と連携と創発のこの言葉はとても重いと思うんです。これを見るとやはりサポセンの機能が、それぞれ創意工夫と自立型のそれぞれの機能を生かして自立をしていくことと、相乗効果を生み出すということです。それが重なったところにこのサポセンの機能がどのくらい入れ込めるかなんです。

それぞれの創発だったり連携だったり、自立が何かということは、コンセプトの議論のときに、実はとても基礎的なことのようで、ヒントであると思うんです。

それを統合するというところにとても力がいるんですよね。それをつなぐ場がやはりないのです。そういう意味では、サポセンはとても立地の素晴らしいところなので、それをもう一步、攻めの戦略を追っていくことです。

もちろん守りもとても重要です。仙台市としてメンテナンスとして、守りとか防災とか、やっぱりとても重要な福祉とかがあるんですけど、同時に市民の満足度をしっかりと高めて、仙台市に住んでいただく。仙台市を好きになっていただく。そういう新しい価値観を生み出す創発的な場所がサポセンであるというようなことになるように、我々も知恵を出して、突破できるように頑張りたいと思いますので、ぜひ事務局も一丸となって、その重要度をみんなで説明できるようなストーリーをつくっていきたいと思います。

最近そういう公共施設管理の話がいっぱい出てきて、その社会资本整備というのは、お金があるときに随分むだ使いして、あとで結局世話がかかるというのはよくある話で、これから縮退社会というか、人口減少社会には必ず起きるので、やはりその中でいきいきと市民が活動できるようなものがなければ、楽しさが湧いてこないと思います。そこを我々は担っているというように考えていただいて、ここまでできた協働まちづくりを何とか形の見える成果を皆さんにプロモーションしないと、わかつてくれないので、ここが重要なところだと思います。

これまでの実績をしっかりと打って出て、そこで皆さんが場所をつくって次にいけると思いますので、我々はとても重要なステージにいると思います。10月中旬に何かたたき台を出さなければいけないという、アクションチームにはさらにご苦労をかけますが、オブザーバーとサポーターに入っていただきながら、まとめていただければと思います。

あとそれ以外の今日の議題の「推進プラン 2016」についても、実績等についてもう一度見ていただいて、そういう実績を踏まえてこれから説明力のある政策を展開するというのが、行政としては必要ですので、いろいろお気づきの点があれば、メール等でも電話でもいただければと思います。今日も議論ありがとうございました。以上でここまで議事を終わりたいと思います。お疲れ様でした。ありがとうございます。

5 閉会

[事務局（協働推進係長）]

それでは以上をもちまして、第3回仙台市協働まちづくり推進委員会のほうを終了させていただきます。遅くまでのご議論、大変ありがとうございました。一了

（議事録署名人）

風見正三
[委員長]

小野洋子
[署名人]